

子育て応援出前講座レポート 「仕事×育児」アップデートセミナー



日時

2025年9月7日(日)13:30～16:00

場所

古野電気株式会社 本社（西宮市）ハイブリッド（オンライン併用）

参加者

古野電気株式会社 従業員の皆様

■古野電気における現状と課題

- ・古野電気様の現状：男性の育児休業取得率が7割に到達するなど、組織として非常に積極的に取り組んでいる。
- ・直面している課題：営業職など「他に代わりがきかない」現場の人材が、どのようにすれば周囲への負担を抑え、心理的ハードルを下げた取得できるかが大きな悩みとなっている。

■講演要旨

- ・ワークライフバランス（WLB）の本質：育児休業取得者のみを対象とするのではなく、職場全員の「ワーク」と「ライフ」を充実させるためのきっかけづくりである。
- ・企業価値への影響：育休を取りやすい環境は心理的安全性を高め、結果として「優秀な若者に選ばれる企業風土」に繋がる。
- ・「不公平感」へのアプローチ：子供を持たない層にとっても、自身のライフ充実のために「有給休暇を取得できる」ことはWLBの重要な要素であり、組織全体が等しく自分らしく働ける環境を作る一助となる。

■パネルディスカッション

- ・現場目線の工夫（山本）：
「現場は替えがきかない」という現実に関心しつつ、周囲との対話を通じて業務改善の余地を模索する重要性を提示。
- ・フレキシブルな取得形態の提案（佐藤氏）：
堀が実施した「変速育休（火・木休み等）」のような変則的な取得は、現場の実情に合わせた課題解決の有効な選択肢となり得る。



アンケート結果について 【回答者17名】

- ・ 年齢：30代（4名）40代（3名）20代(2名)50代以上(3名)
- ・ 性別：男性10名、女性2名
- ・ 状況：子育て中(6名)、それ以外(6名)
- ・ 管理職 子育て中：1名 それ以外：2名
- ・ 一般職 子育て中：5名 それ以外：4名

セミナー満足度

- ・ 満足（非常に・やや）：10名
- ・ どちらともいえない：1名
- ・ あまり満足していない：1名

※「あまり満足していない」と回答された方も、理由としては「参加人数が少なすぎる事への不満」や「周囲の関心の低さ」を挙げられており、セミナーの内容自体は高く評価されています。

参加者のアンケート結果

自由記述

- ・「育休は休みではない。育児ブートキャンプだ」という言葉が印象的だった。
- ・「育休」を特別視せず、誰もが多様な休み方を選択できる職場にすることが大事という視点が新鮮だった。
- ・「わが子と生涯で一緒に過ごす時間は3年4カ月」という話を聞き、今しかない子供との時間を大切にしたいと感じた。
- ・将来的に育児休暇を取得したいと考えているので、非常に参考になった。
- ・育休取得を「個人の問題」ではなく「組織として取り組むべき課題」と捉え、環境改善を推進する責任を感じた。
- ・製造現場では「労働力不足への心配」や「取得しにくい雰囲気」が悪い循環を生んでいる。取得しても生産に影響が出ないという安心感が必要。
- ・生産性向上に繋げるためのワークライフバランスの取り組みが重要。
- ・個々の状況を把握するためにも、日頃のコミュニケーションをこれまで以上に心がけたい。
- ・かつての転勤先で、残業の多さや職場の雰囲気から妻に大きな負担をかけてしまった後悔がある。
- ・育休取得がゴールではなく、その後の子育てと並行したワークライフバランスの継続こそが重要だと感じた。
- ・若い世代の価値観を知ることで、自分自身の意識をアップデートできた。
- ・育休取得後の経験談や、仕事と子育てを両立する具体的な話をもっと聴きたかった。
- ・「自分と親が過ごす時間」という視点から、今後直面する「介護」についての知識や対処法をテーマにしてほしい。